

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2009

課題番号：18320102

研究課題名（和文） 東照宮祭祀の基盤・確立・展開

研究課題名（英文） The Formation, Establishment, and Development of Religious Observances at the Toshogu-Shrine.

研究代表者

曾根原 理（SONEHARA SATOSHI）

東北大学・学術資源研究公開センター・助教

研究者番号 30222079

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：近世史

1. 研究計画の概要

(1) 参加する研究者の各々が異なる専門分野を持つため、共通の課題（日本近世社会と東照宮の関係）に対する各々のアプローチ方法について、年2回の研究会で交互に報告を担当し、意見交換を行った。

(2) 東照宮の関係史料について、共同で現地調査を実施した。

(3) 各々の専門分野の研究史や史料調査の成果を共有し、その上に立って各自で、また合同で成果報告を行った（計画した）。

2. 研究の進捗状況

(1) 3年間に年2回、合計6回の研究会を実施し、合計11本の報告について意見交換を行うことが出来た。本科研の参加メンバーは、日本近世史を中心に、宗教史、文化史、民俗学、日本文学など多様な専門に分かれるが、この研究会活動の結果、東照宮という共通の対象に対し、共通の基盤を踏まえて取り組める体制が出来上がった。

(2) 主に名古屋東照宮の別当寺院、鳥取東照宮の別当寺院、天台宗の談義所寺院（東照宮を創設するに際し基盤となった）の3ヶ寺において合同で史料調査を行い、従来知られていなかった新たな史料を発掘することが出来た。また、異なる分野の史料調査方法について、相互に学習することが出来た。

(3) 科研の成果報告として、2007年10月の日本思想史学会（長崎大学）において、研究代表者および分担者のうち4名でパネルセッション「天台宗談義所における知の形成－柏原談義所を中心に－」を実施し、その概要は『日本思想史学』40号（2008年）に掲載された。次に、2008年5月末に開催された浙江

工商大学日本文化研究所・早稲田大学日本宗教文化研究所第3回共同シンポジウム「海を渡る天台文化」（中華人民共和国浙江省天台県）に4名が参加し、科研の活動の成果を生かした報告を行った。また、2009年6月にオランダ国ライデン大学において、国際研究集会 Perspectives on Religion and Ritual in Early Modern Japan（近世日本における宗教と儀礼へのまなざし）を Leiden Institute for Area Studies と合同で開催し、本科研から9名が報告を行う予定であり、現在準備を進めている。そこでは、本科研の活動によって知ることの出来た新たな史料や、議論を通じて得られた新たな視点などを生かした報告を予定している。

以上とは別に、各自が個別に成果報告を行っている。また、特に東照宮に関する出版物として、曾根原と山澤が単著を刊行した。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進行している

（理由）

当初は5名のメンバーでの比較的小規模な活動を想定していたが、研究会や史料調査の活動を進める中で、4名の研究分担者と数名の研究協力者の追加参加を得ることになり、多面的かつ精力的に活動を進めることが出来た。その結果、成果報告についても、当初は国際学会への参加という客観的な形態を考えていたが、本科研が主体となった国際研究集会を組織することが出来た（受入側のライデン大学関係各位のご高配について感謝している）。東照宮祭祀の「基盤・確立・展開」というテーマのうち、特に「基盤」部分は所期の目的が達成されたと判断し、今後は

「確立・展開」分野に重点をおいて、活動を継続する予定である。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 研究会については、今後も継続する。ただし、異なる専門の間で共通認識を形成する段階は終わり、史料調査で得られた成果を合同討議することを中心に行う。

(2) 史料調査も引き続き実施する。

(3) 成果報告については、①2009年6月の国際研究集会の成果の公開（本科研報告書）、②研究代表者・分担者の著書・論文に本科研の活動を反映させる、③期間内に国内と国外で本科研として学会等で報告する機会を作る、といったことを検討している。さらに、④史料集やデータベースの作成についても検討している。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① 曾根原 理、徳川家康年忌行事と延暦寺、仏教史学研究、51-1、p1-21、2008年、査読有
- ② 山澤 学、山崎美成の『日光筆記』—天保期東叡山修史事業と日光山史料採集—、栃木県立博物館紀要、11、p126-140、2007年、査読無
- ③ 曾根原 理、The Establishment of Early Modern Buddhism、Acta Asiatica、91、p65-83、2006年、査読無
- ④ 曾根原 理、東照宮祭祀と山王一実神道、国史学、190、p5-24、2006年、査読有
- ⑤ 牧野 和夫、新出『小児論』二種紹介、実践国文学、70、p1-9、2006年、査読無

[学会発表] (計5件)

- ① 曾根原 理、日本近世天台の時期区分、浙江工商大学日本文化研究所・早稲田大学日本宗教文化研究所第3回共同シンポジウム「海を渡る天台文化」、2008年6月1日、天台賓館（中華人民共和国浙江省）
- ② 曾根原 理、柏原談義所の成立をめぐる、日本思想史学会 2007 年度大会、2007 年 10 月 21 日、長崎大学（長崎）
- ③ 松本 公一、談義所と本草学、日本思想史学会 2007 年度大会、2007 年 10 月 21 日、長崎大学（長崎）
- ④ 大島 薫、湖東地域における真言教学と天

台教学、日本思想史学会 2007 年度大会、2007 年 10 月 21 日、長崎大学（長崎）

- ⑤ 曾根原 理、徳川家康年忌行事と延暦寺、仏教史学会第 58 回学術大会、2007 年 10 月 20 日、花園大学（京都）

[図書] (計3件)

- ① 山澤 学、思文閣出版、日光東照宮の成立—近世日光山の「荘厳」と祭祀組織—、2009年、全406頁
- ② 吉原浩人・王勇編、勉誠出版、海を渡る天台文化、2008年、佐藤真人分担執筆 p151-175、同曾根原理p225-248、同松本公一p385-412
- ③ 曾根原 理、吉川弘文館、神君家康の誕生—東照宮と権現様—、2008年、全191頁

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]